

大会特別規定

1. 本大会に参加できる選手は、所属団体において、本年度に登録されたチームで本年度に登録された者とする。
2. チームは、原則として単独チームとし、25名の選手で編成すること。また、グラウンドインから試合終了まで、ベンチに入ることができる役員は、監督・コーチ・マネージャー（スコアラー）の3名とし所属団体の規程がある場合は、その規程の3名を優先する。選手・監督・コーチは同一ユニホームとするが、背番号については所属団体の規定を優先する。チーム責任者は本部席において試合運営の補助を行う。
3. 野球規則は、本年度公認野球規則とする。
4. 各チームは必ず成人であるチーム責任者が引率し大会中、役員及び選手の全ての行動並びに応援に対し責任を負うこと。
5. 各チームは試合開始時間60分前、または球場に到着次第、所定のオーダー表5部（所属団体の規定を優先）を球場責任者に提出する。
6. 球場責任者は提出されたオーダー表と登録役員選手名簿を照合する。確認後、役員、選手の確認と用具の安全点検を行う。次に審判員立ち会いのもとで両チームの監督と主将で攻守を決める。その際、試合と球場規則の説明を行う。2試合目以降は前試合4回終了後（コールドゲームの時は試合終了次第）または、チームが準備でき次第、1試合目と同様の審査と攻守を決める。
7. 各試合は7回戦とし、4回終了時10点差もしくは、5回終了時7点差の場合コールドゲームとする。決勝戦にもコールドゲームを適用する。また、本大会はサスペンデッドゲームを採用しない。
8. 7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長は1回、決勝は延長3回とする。あるいは試合開始から2時間、決勝戦は2時間20分を越えては新しいイニングに入らず、タイブレーク方法を実施する。タイブレークは1回としボーライズリーグのタイブレーク実施細則に準じる。決着のつかない場合は、最終メンバーによる、抽選とする。
9. 降雨その他の理由により試合続行不能の場合、4回終了をもって正式試合とし、それ以前の場合は再試合とする。この場合審判員協議の上で決定する。
10. 投手は、ダブルヘッダーでの連投を認めるが、同一日に7回を越えて投球することはできない。ただし、端数回数は試合毎に切り上げて1回とする。例えば1試合目で2回1/3を投げた場合は3回と計算し、次の試合で4回を越えて投球できない。また、JABAの中学生投手の投球制限ガイドラインを適用する。
11. 選手が打席にはいる時、必ず耳付きヘルメットをかぶること。また、走者になっても危険防止のため必ず着用する。なお、捕手も防護用ヘルメットと防具を着用すること。練習時も同様とする。
12. 代替走者を認める。ただし、死球などの特別な事情の場合に限り、少し休めば試合に出場できると審判員が判断した時に適用できる。この場合、その打者の最も近い打撃の完了した選手（投手

捕手を除く）を代替走者とする。

13. 審判のジャッジには必ず従い抗議は受けない。規則上の疑義申し出は監督が行い攻守交代の際2分以内で説明を求めることができる。審判に対して暴言を発した者は即時退場とする。
14. 傷害措置については、大会中の負傷または疾病に対して応急処置は施すが、それ以上主催者は責を負わない。
15. ベンチは、組合せ表の若番のチームを1塁側とする。
16. グラウンドインしたチームは、球場責任者の指示のもと、速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
17. 試合前のシートノックは、開始放送時から5分間とする。時間厳守で行うこと。
18. 試合を迅速に行うために下記の項目を守ること。
 - ・攻守交代時に守備に移るチームが迅速にポジションに着くことはもちろんのこと、攻撃に入るチームも第1打者とベースコーチは、ミーティング（円陣）に加わらず、所定の位置に速やかにつくこと。
 - ・投手は、投手版に触れている状態で捕手からサインを受けること。
 - ・打者は、みだりにバッターボックスを出ることを許されない。たとえ、タイムを要求しても審判員がタイムを宣告しない時はインプレーとする。
 - ・次打者は必ずウェーティングサークルに入り、膝について待機すること。危険防止をふまえた上で、片膝についてスイングすることは場合により認められる。投手が次打者になる場合も同様である。
 - ・捕手が投手に返球する時は立って行うこと。
 - ・捕手は投手に返球する時や、野手に声をかける際に一球ごとにホームプレートの前に出ないこと。
19. 監督又はコーチがマウンドに行く制限は、2回までとし、3回目に投手は自動的に交代となるが、投手は試合から除かれることはなく、他の守備につくことができる。
20. コーチャーズボックスに入るコーチャーは相手選手を惑わすような動き、声掛けをしてはならない。打者にサインと疑われる様な声掛けや指示をしてはいけない。
21. 塁上の走者は相手捕手のサインやミットの位置を打者やベンチに伝達するような行為をしてはならない。
22. 選手の手袋などの使用については、対戦チームの不利益にならない範囲で使用を認める。
23. ゴミやタバコの吸殻は、球場構内に捨てず、必ず持ち帰ること。スタンドで応援する選手・保護者等にも徹底すること。チーム責任者が最後まで責任を持って環境整備を行うこと。
24. 楽器やペットボトルを使用した鳴り物の応援は禁止とする。特に、試合球場周辺に住宅がある場合は住民に迷惑となるような音や声は出さないように注意する。チーム責任者が最後まで応援の管理を行うこと。